



今月は、「ジオパーク」の仕組みがどのようなものをおさらいしてみよう。ジオパークは、2001年にユネスコが世界各国のジオパーク推進活動の支援を決定したことが大きな始まりです。2004年に現在の世界ジオパークネットワーク(GGN)が設立され、GNは世界各国から申請されたジオパークを審査・認定しています。

ジオパークと世界遺産条約

世界遺産条約は、1972年に始まった取り組みで、正式には「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」といいます。

この条約に批准した国とその地域には、登録された遺産を保護するために、厳しい制約が課せられます。しかし、遺産の保護に要する負担が、地域の財政を圧迫するという事例が生じ始めました。

世界遺産条約は、対象のものを「守る」ことに特化した仕組みでしたが、それをどのように持続させるかについては、きちんと検討がされていませんでした。その不備を補い、「人類にとって大事なものを守りつつ、それをうまく活用して地域を活性化させ、持続的に発展させていく」という仕組みが、ジオパークです。

ジオパークは、貴重な遺産の保護・保全と地域の経済発展を両立させ「地域社会の持続可能な発展」を目指しています。将来的に地域経済が発展することが求められますので、ジオパークに住む私たちが一緒になってジオパークの活動に積極的にかかわることが求められます。

ジオパークがやらなければならないこと

貴重な大地の遺産があるだけでは、ジオパークにはなりません。前提として、大地の遺産が保護されていなければなりません。そのうえで、それらを持続可能な方法で、教育や観光に活用し、地域経済を発展させていく必要があります。

世界遺産条約と異なり、ジオパークの場合には、大地の遺産の保護保全や、それらを活用した地域振興については、その地域独自の方法を取ることが許されています。

そのような手法で本当に遺産が保全され、かつ活用されているかをチェックするため、ジオパークに認定された地域は、4年ごとに再認定審査を受けることが義務付けられています。

島原半島ジオパークでは、GNから派遣



GN現地調査の様子 (平成 21 年 8 月)

された審査員による再審査が今年の夏ごろ行われる予定です。もし、再審査で審査員からレッドカード(認定をはく奪)を突きつけられたら、その時点で島原半島は世界ジオパークではなくなってしまうのです。

世界認定がはく奪される？

では、実際に世界認定がはく奪されてしまったジオパークは、これまでにあったのでしょうか。

イギリスの「ロツハーバージオパーク」は、ジオパークを運営するスタッフを確保する予算がなく、ジオパークとしての持続的な活動が維持できないと判断されたために、世界ジオパークの認定がはく奪されました。

このほかにも、イランやオーストラリアなどにあった世界ジオパークが、何らかの理由で世界認定をはく奪されています。

認定を得ることより、その質を維持し、向上させていくことが重視されているのです。

昨年5月、島原半島で「ジオパーク国際ユネスコ会議」を開催し、世界各国の多くの人に島原半島世界ジオパークの素晴らしさを知ってもらいましたが、今後も世界ジオパークとして認めてもらえるよう、引き続き地域全体でジオパークを活用した取り組みを続けていかなければなりません。

みんなで「島原半島世界ジオパーク」を盛り上げていこう！

